

六甲山上に新ホテル

4階建て25室 7年ぶり、来秋開業

2019年秋に開業するホテル神戸六甲迎賓館(仮称)のイメージ
(エイム提供)



大浴場など登山者らも利用可

増えているため、7室をシングルにする。

料理に力を入れ、料金は1泊2食付きで1人約3万円と想定。事業費は約13億円。20年度に年間9500人の集客を目指す。

神戸市によると現在、六甲山と摩耶山の山上一帯には一般向け宿泊施設が6カ所あり、新たな開業は12年のオーシャンテラスあじさい以来となる。市は山上のにぎわいを創出するため、遊休施設の改修費用の一部を助成しており、今回は600万円を支援する。

エイムは、八杉明博社長(60)が食品貿易商社勤務を経て1990年に創業した。食品の輸入に加え、菓子などの企画販売も手掛ける。07年にホテル運営に乗り出し、大山(鳥取県)、箱根強羅(神奈川県)、伊勢志摩(三重県)、富士山中湖(山梨県)の4カ所で展開している。

八杉社長は「自然の中で多くの人の笑顔があふれる施設にして、六甲山の活性化に役立ちたい」と話している。

食品の輸入・企画販売のエイム(神戸市中央区)は2019年秋、同市灘区の六甲山にリゾートホテル「ホテル神戸六甲迎賓館」(仮称)を開業する。同山上に一般向け宿泊施設がオープンするのは7年ぶり。大浴場などをハイカーら宿泊者以外も利用できるようにし、六甲山の活性化に一役買う。

(長尾亮太)

ホテルは4階建て延べ約2400平方メートル。神戸女学院から昨年買い取った研修施設(同市灘区六甲山町南六甲)を建て替える。山の斜面を生かした構造に

し、2階に玄関を設ける。1階の大浴場、2階の物販スペースやカフェ、3階のレストランなどは宿泊客以外も利用可とする。客室は25室。一人旅を楽しむ人が